

2025 年度 事業報告書

(公財) 京都市男女共同参画推進協会

公益目的事業1(定款第4条)

頁

1. 男女共同参画に関する情報及び資料の収集、保存及び提供 (第1号)	(1) 図書資料の収集と提供	① 図書情報室の運営	8
	(2) 図書事業	① ブックフェア及び市立図書館等との連携 ② 男女共同参画パネル展と上映会	
	(3) 情報発信事業	① インターネットでの情報発信 ② 啓発誌・講座案内の発行 ③ ポスター掲示・広告掲載	10
2. 男女共同参画社会の形成のための調査及び研究 (第2号)	調査研究	① 「男女共同参画“はじめての一步”BOOK」作成(隔年)	12
3. 男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援 (第3号)	(1) 啓発事業及び学習支援	① みんなで考える男女共同参画講座	13
		② 両立支援講座	15
		③ 男性性について考える講座	16
		④ DV予防講座	18
		⑤ 女性の健康に関する理解促進事業	20
		⑥ ジェンダー論基礎講座	21
		⑦ 不安を抱える女性を対象とした就業支援事業	22
	(2) 企業・大学・地域との連携事業	① 性暴力予防啓発事業	24
		② 女子大生と考える女性活躍	25
		③ LGBT等居場所づくり (コミュニティスペース及び個別相談会)	26
	(3) 教養・健康増進事業	① 運動講座・うた講座・その他教養講座	28
	(4) 保育事業	① 事業参加者の保育・施設利用者の保育	29

公益目的事業2(定款第4条)

	頁
4. 男女共同参画に関する相談 (第4号)	
(1) 相談業務	
① 女性のための相談	30
② 男性のための相談	
(2) 相談事業	
① 大学相談室派遣事業	31
② 相談員研修	
③ DV被害当事者のための自立支援事業	32
④ トラウマ・ケアの読書会	33
⑤ 不安を抱える女性に寄り添った相談支援事業	35
(3) 関係機関連携 苦情・要望等処理制度の受付	
① 関係機関連携 苦情・要望等処理制度の受付	36

公益目的事業3(定款第4条)

	頁
5. 男女共同参画に関する市民の 活動の支援及び相互交流の促進 (第5号)	
(1) 地域コミュニティ活性化の促進 事業	
① センター利用者や地域との協働事業	37
② パープルリボンの取り組み他	39
(2) 人材・団体育成事業	
① 市民活動サポート事業	41
② 防災リーダー育成事業	42
③ 共催・後援事業	44
④ 講座受講者との相互交流	
(3) 京都市男女共同参画センター の目的利用団体に対する施設 管理業務	46

収益事業

	頁
京都市男女共同参画センター の目的利用団体以外に対する 施設管理業務	48

財団運営

	頁
経営管理、組織・人事管理	49
財務運営	51

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する情報及び資料の収集、保存及び提供		条項	第1号	
事業名	(1)図書資料の収集と提供／(2)図書事業		総務課		
講座名	(1)①図書情報室の運営／(2)①ブックフェア及び市立図書館等との連携 ②男女共同参画パネル展と上映会				
目的	男女共同参画を推進する拠点施設としての情報収集・発信				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	980	1,247	△ 267		

■事業の計画

1. 実施内容

- (1) 男女共同参画に関する情報・資料の収集
図書情報室利用者への適切なレファレンスの実施
- (2) ①ブックフェア及び市立図書館等との連携(パネル展)
②男女共同参画に関するパネル展と上映会の実施

2. 事業実施における課題

- ・ 新規図書システム導入の検討

■実績

- (1) 男女共同参画に関する情報・資料の収集
図書情報室利用者への適切なレファレンスの実施
＜別紙1＞「2025年度 図書資料の収集と提供」(p.55)
- (2) ①ブックフェア及び市立図書館等との連携(パネル展)
- (ア) 男女共同参画週間
「誰でも、どこでも、自分らしく」 6月5日(木)～7月7日(月)
 - (イ) 国際ガールズデー
10月11日は「国際ガールズデー」 9月20日(土)～10月24日(金)
 - (ウ) パープルリボン月間
「暴力にはNO!を言い続けようージェンダーの視点で暴力を考えるー」
10月25日(土)～12月2日(火)
 - (エ) 国際女性デー
「国際女性デー2026」 2月28日(土)～3月27日(金)
 - (オ) ミニブックフェアの開催
「共にあるための第一歩は、“知る”ことから。LGBTQ+ブックフェア」など 3回
 - (カ) 京都市立図書館との連携
京都市市立図書館に、ブックフェアで使用したブックリストとパネルのデータを提供した。
 - ・ 男女共同参画週間 (11館)
 - ・ 国際ガールズデー (6館)
 - ・ パープルリボン月間 (1館)
 - ・ 国際女性デー2026 (12館)
- ② 男女共同参画に関するパネル展と上映会の実施
- (ア) 国際女性デー パネル展 2月27日(金)～3月20日(金)
 - (イ) DVD映画上映会
 - ・ 上映作品 「サムジンカンパニー1995」
実施時期 6月13日(金)・14日(土) 4回上映 のべ32人
 - ・ 上映作品 「コット、はじまりの夏」
実施時期 10月10日(金)・11日(土) 4回上映 のべ31人
 - ・ 上映作品 「ビリーブ 未来への大逆転」
実施時期 3月6日(金)・7日(土) 4回上映 のべ37人

■概要と成果

施設の整備工事に伴い、2024年11月18日から2025年4月16日までの期間、図書情報室を閉室し、電話、メールからの申し込みによる貸出とした。

また、同じく工事に伴い、ギャラリースペース・1階ロビーが利用できなかったため、上半期にパネル展を開催することができなかった。

ブックフェアは、館内の図書情報室での展示にとどまらず、市立図書館にデータを提供することで、より多くの市民に向けた啓発の機会となった。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する情報及び資料の収集、保存及び提供		条項	第1号	
事業名	(3)情報発信事業		事業企画課		
講座名	①インターネットでの情報発信／②啓発誌・講座案内の発行／③ポスター掲示・広告掲載				
目的	ICT(情報通信技術)及びその他ツールを利用した情報発信により、男女共同参画の促進を図る				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	3,542	2,943	599		

■事業の計画

1. 実施内容

- ① ・ ホームページの更新(随時)
- ・ メールマガジン「Wings Press」(月1回・号外)／Facebook・X・note(随時)
- ② ・ 啓発誌「男女共同参画通信」の発行 年2回 各17,000部
- ・ 講座案内「ウイングスきょうと」の発行 年6回 各6,500部
- ③ ・ DV啓発ポスターの掲示・新聞への広告掲載

2. 事業実施における課題

- ・ タイムリーな情報発信と社会の時流にのったテーマ設定

■実績

- ①・ホームページ 年間閲覧数295,975回／ユーザー数83,627人(うち新規74,992人)
 - ・ メールマガジン 登録者数2,636人
 - ・ Facebook いいね数552人／フォロワー767人
 - ・ X(旧Twitter) フォロワー数1,862人
 - 1ツイートの最大インプレッション(表示回数) 100,000回
- ②(1) 啓発誌「男女共同参画通信」 年2回発行(各17,000部)
 - ・ Vol.60「“ワーキング・ケアラー”の今と未来」
 - ・ Vol.61「ルッキズム ―知る、学ぶ、不安に寄り添う―」
 (2) 講座案内「ウイングスきょうと」 偶数月・年6回発行(各7,000部)
- ③ DV啓発ポスターの掲示・新聞への広告掲載
 - (1)リビング京都新聞 10月26日号 京都市全域エリア 468,500部
 - (2)京都市地下鉄の車内吊ポスター 270部 掲載期間11月1日～30日

■概要と成果

①ホームページ等

アクセシビリティJIS X 8341-3:2016「AA」準拠を維持している。
アクセスの約70%が44歳以下、特に25～34歳が27.4%と、若年層への情報提供に効果的であることが伺える。昨年度と比較すると、メールマガジンの登録者数が若干減少、Facebook、Xのフォロワーは微増であった。
新しいプラットフォームの活用等、より広く情報提供できる工夫を行っていきたい。

② (1) 啓発誌「男女共同参画通信」

・Vol.60「“ワーキング・ケアラー”の今と未来」では、介護が始まってもキャリアや仕事をあきらめないために、ワーキングケアラーの現状や職場・周囲ができる両立実現のためのポイントを提示し、社会全体で支え合える環境づくりの重要性をまとめました。

・Vol.61「ルッキズム ―知る、学ぶ、不安に寄り添う―」では、『見た目』を取り巻く環境をジェンダーの視点で読み解き、ルッキズムをめぐる多様な視点を提示することで、これまでの認識を捉え直すきっかけとした。

(2) 講座案内「ウイングスきょうと」

ウイングス京都で実施する講座・イベント・啓発誌発行の情報を掲載し、公共機関などに配布し、当センターの事業を広く周知した。

③ DVについて市民に広く周知するため、生活情報誌として発行部数が多いリビング京都の広告欄に「あなたがいつも我慢していませんか？チェックリスト」及び「11月パープル月間イベント」を掲載した。また、「パートナーとの関係は対等ですか？」と掲載したポスターを京都市地下鉄に車内吊りし、DV 防止を啓発した。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の形成のための調査及び研究		条項	第2号	
事業名	調査研究		事業企画課		
講座名	①「男女共同参画“はじめての一步”BOOK」作成(隔年)*今年度発行なし				
目的	男女共同参画の現状を市民に情報提供することや、ジェンダーの視点で調査分析を行うことで、男女共同参画を促進させる				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	30	0	30		

■事業の計画

1. 実施内容

- ・ 次年度発行に向けた編集会議の実施及び国内外の調査報告書のデータの把握

2. 事業実施における課題

- ・ 前年度に発行した「男女共同参画“はじめての一步”BOOK」の改善点の把握
- ・ 出前講座等における「男女共同参画“はじめての一步”BOOK」の効果的な活用

■実績

- ・ 「男女共同参画“はじめての一步”BOOK」を出前講座や定期講座で実際に使用し、次回の発行に向け、改善点を確認した。

■概要と成果

資料サイズをA4にしたことで情報は充実したが、データの見せ方に課題があるため、次回の冊子作成の際に改善する。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援		条項	第3号	
事業名	(1)啓発事業及び学習支援		事業企画課		
講座名	①みんなで考える男女共同参画講座				
目的	男女共同参画についての基礎知識を学び、自らのジェンダーに気づく講座を実施するとともに、男女共同参画の課題解決に向けた学習支援を行う				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	180	167	13		

■事業の計画

1. 実施内容

- ・ 定期開催
一般市民向け基礎講座(年4回 ウィングス京都にて実施)
- ・ 出前講座
企業・教職員・団体向け基礎講座(希望に応じてテーマ・会場を選定)
＜講座テーマ＞
 - ・ 男女共同参画とは
 - ・ DVを知る・考える
 - ・ ハラスメントとは
 - ・ 働くあなたのワーク・ライフ・バランス
 - ・ 防災と男女共同参画
 - ・ LGBTってなに？
- ・ 「男女平等教育を考える」(教職員向け)については、依頼が多い夏期に合同研修を実施し、各校の取組や児童・生徒の発達に合わせたプログラムづくりに向けた情報交換の場を提供する

2. 事業実施における課題

- ・ 適切に男女共同参画の基礎を解説できる人材の育成
- ・ 学年にあったプログラムづくりに向けたリサーチ

■実績

年間21回の講座を実施し、594人の参加となった。また講座とは別に25件の学習相談に応じた。

＜別紙2＞「令和7年度『みんなで考える男女共同参画講座』実施一覧」(p.56)

■概要と成果

●定期講座

一般市民のほか、京都市男女共同参画推進員の研修の機会として推進員にも参加を働きかけた。「男女共同参画“はじめての一步”BOOK」をテキストに、データなどを見ながら基礎的な知識を伝えるとともに、ワークを用いることでさらに理解が深まるようにした。

●出前講座

本年度は大学や行政、民間企業等から多様なニーズに応じた依頼に対応した。継続中の看護学生向け実習は満足度100%を維持し、次年度の依頼に繋がるなど、将来の支援者育成において高い信頼を得ている。中学校での教職員研修では、生徒への影響を慮る現場の懸念を丁寧に汲み取り、相談機関との連携フローを再確認したことで、学校全体で生徒を見守る共通の指導基盤を整えることができた。また、経営層への研修では、ワークを通じて無意識の偏見への気づきを促し、多様性受容の重要性を提示できた。今後は、現場の運営環境に関わらず質の高い学びを提供できるよう事前調整を徹底するとともに、対象の習熟度に応じた柔軟な進行手法を磨き、更なるニーズに応えていく。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援		条項	第3号	
事業名	(1)啓発事業及び学習支援		事業企画課		
講座名	②両立支援講座				
目的	男性と女性が共に育児を担うことの重要性を知り、自分たちにとってのワーク・ライフ・バランスやキャリアを考える機会とする				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	400	164	236		

■事業の計画

1. 実施内容
・ ワーキングペアレンツとして子育てをしながら、どのように働き、自身のキャリアを形成していくかについて考えるとともに、参加者が交流できる機会を提供する
2. 事業実施における課題
・ 男性の家事・育児への参画促進や女性のキャリア形成の意識付け ・ 参加者同士のコミュニケーション

■実績

「ワーキングペアレンツに贈る、自分らしいライフ・キャリア発見！セミナー」を開催し、働きながら子育てする女性・男性それぞれに存在する諸問題を取り上げ、パートナー(家族)とともに課題を知ること自身のキャリアを前向きに考える為の講座を3回開催した。 第1回 10月5日(日)「男性が子育ても仕事もできる環境」 【講師】中里英樹(甲南大学文学部教授) 【ロールモデル】中村篤人(コミュニティ・バンク京信人事部主任) 第2回 11月8日(土)「女性が働き続けるために必要なことって？」 【講師】奥野明子(甲南大学経営学部教授) 【ロールモデル】國定若菜(knocks! horikawaみんなの図書館主宰) 第3回 11月29日(土)「自分らしい未来を見つけよう」 【講師】植田香代子(1級ファイナンシャルプランニング技能士・キャリアコンサルタント) 参加人数:17人／アーカイブ視聴回数 第1回:29回 第2回:20回

■概要と成果

申込人数が少なく、講座対象以外の方からの問い合わせがあるなど広報や講座内容に課題があったが、参加者からは前向きなキャリア形成を考える機会になったというお声をいただいた。オンライン参加など、現代の子育て世代の参加率を上げる改善点の洗い出しが必要である。
--

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援			条項	第3号
事業名	(1)啓発事業及び学習支援			事業企画課	
講座名	③男性性について考える講座				
目的	男性がジェンダー問題に向きあい、自身のあり方を見つめ直す機会を提供する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	350	1,078	△ 728		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 男性性や男性特権について学ぶとともに男性同士の語り合いを通じて、ジェンダーにとらわれない生き方を探る講座を実施する(語り合い4回、セミナー1回)
2. 事業実施における課題
・ 男性の参加につながる広報 ・ 男性が安心して語れる場づくり ・ 男性のジェンダー課題の掘り起こし

■実績

DAY1: 6月22日(日)「～割り勘ってナシですか?～」

ゲスト:あしたば、ハーシー(ぼくらの非モテ研究会)/ 参加者15人

DAY2: 9月21日(日)「男性のスキンケアってありますか? おしゃれって自由ですか?」

ゲスト:爪切男(作家)/ 参加者11人

DAY3: 12月21日(日)「今! ぼくのコミュニケーション論」

ゲスト:西井開(立教大学大学院社会デザイン研究科特任准教授)/参加者13人

DAY4: 3月21日(日)「解剖学で知る 身体の声って何ですか?」

ゲスト:原槇大揮(株式会社イークオリティ代表取締役)/ 参加者12人

全回ファシリテーター:足達龍彦(場づくりカレッジえすけーぷ。)

【市民対象事業】

●展示『わたしたちはわかりあえないからこそ展』

アドミュージアム東京で2025年6月から8月まで開催されていた、ジェンダーギャップについての企画展『わたしたちはわかりあえないからこそ』展を開催。ジェンダーギャップの問題をテーマとした広告を多数展示。自分の中で無意識に形成されている偏見や、社会への違和感に気づき、ジェンダーについて対話するきっかけを提供した。若年層を中心にSNS等で話題となり、来場者の増加につながった。

会場:ギャラリースペース / 期間:2月1(日)～2月28日(土) / 来場者:2848名

●イベント『“らしさ”について、わかりあえないかもしれない、から始まる対話』

対象:テーマに関心のある方

講師:今井まゆり(当協会相談室長)ゲスト講師:白岩玄(作家)

開催日:2月22日(日) / 参加者:50人

ジェンダーギャップについて、対立を煽ることなく、あえて「わかりあえないかもしれない」という地点から対話することで、それぞれの違いを尊重することを目指し、“男らしさ”の正体や行方、社会の「当たり前」を問い直すイベントを実施した。

■概要と成果

男性対象の語り合いの場は、語り合いの中にジェンダー観をどのように入れるか試行錯誤を繰り返して実施した。各回とも参加率は高く、男性対象講座の安定した実施は全国的にも珍しいと言われる事業である。

市民対象の展示と対話イベントは、これからの当協会の啓発事業の軸となる視点を入れて実施し、大きな反響があった。特に若年層に響く事業は多様なジェンダー観がキーワードとなり、多くの市民を対象とする事業は“議論”ではなく“対話”を用いて実施することの必要性が明確となった。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援			条項	第3号
事業名	(1)啓発事業及び学習支援			事業企画課	
講座名	④DV予防講座				
目的	若年層や支援機関の職員等に向け、相手との対等な関係作りや暴力を未然に防ぐことについて啓発を行う				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	271	208	63		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 中学校・高校・支援機関等と連携し、お互いを尊重し、対等な人間関係をいかに築くかを自分ごととして捉えられる講座を実施する(年6回程度)
2. 事業実施における課題
・ 啓発先の拡充、対象となる機関との連携 ・ 若年層が自分ごととして捉えられるテーマの提供

■実績

回数(6) 参加者数(686)人

1. デートDVの理解と対等な関係性性の権利とウェルビーイングの保障のため

【日時】11月28日(金)11:45～12:35

【講師】関口久志(元京都教育大学教授)

【対象】中京中学校 2年生・教職員67人

2. デートDVの理解と対等な関係性性の権利とウェルビーイングの保障のため

【日時】12月4日(木)10:45～12:15

【講師】関口久志(元京都教育大学教授)

【対象】桂川中学校 2年生・教職員220人

3. 対等な関係をつくろう～デートDVを防止するために～

【日時】1月23日(金)13:20～15:00

【講師】NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 足立淳子・あんぐりさなえ

【対象】向島東中学校 2年生・教職員61人

4. デートDVの理解と対等な関係性性の権利とウェルビーイングの保障のため

【日時】2月3日(木)14:20～15:20

【講師】関口久志(元京都教育大学教授)

【対象】西京高等学校附属中学校 2年生・教員128人

5. 対等な関係をつくろう～デートDVを防止するために～

【日時】2月6日(金)14:25～15:15

【講師】NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 足立淳子・近藤凜太郎

【対象】洛西陵明小中学校 8年生・教職員75人

6. 対等な関係をつくろう～デートDVを防止するために～

【日時】2月12日(木)13:30～14:45

【講師】NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 石崎和美・近藤凜太郎

【対象】衣笠中学校 2年生・教職員135人

■概要と成果

本事業は、生徒が互いを尊重し、暴力のない対等な関係を築くための指針を学ぶことを目的に実施した。専門家による講話に加え、中学生や教職員が演じた寸劇を通じ、束縛やSNSの監視といった身近な事例がデートDVに該当することを確認した。生徒たちは日常に近い寸劇に親しみつつも、講師の解説には真剣に聴き入り、相手との適切な距離感について深く考察していた。特筆すべき成果として、家庭環境に悩む生徒が「暴力は当たり前ではない」という客観的事実に触れ、自身の状況を見つめ直す自己回復への一歩となったことが挙げられる。

実施に際しては、教職員への事前研修を行い、生徒の心理的反応への備えや相談体制を共有したことで、学校全体で支える安全な学習環境を構築できた。事後の振り返りでは、多くの生徒が「これからの人付き合い」を具体的に見つめ直しており、相談窓口の周知を含め「嫌なことは嫌と言っている」という感覚を育めた意義は大きい。今後も、生徒が互いを大切にし合える人間関係づくりを継続的に支援していく必要がある。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援		条項	第3号	
事業名	(1)啓発事業及び学習支援		事業企画課		
講座名	⑤女性の健康に関する理解促進事業				
目的	男女がお互いの身体的特徴を理解し、お互いに尊重し、健やかに社会で暮らすことができるよう、女性の健康課題に対する社会全体の理解を促進する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	100	35	65		

■事業の計画

1. 実施内容
女性のライフステージに応じた健康課題を理解し、その対処法や選択肢について学ぶ機会を提供する
2. 事業実施における課題
生活の場(家庭、地域、職場、学校)を通じた社会全体で女性の健康を支援するための理解促進

■実績

『漢方で整える、日々の私のヘルスケア』 女性の健康を生涯にわたって総合的に支援することを目指して、女性が自らの体調に目を向け、東洋医学や漢方を日常に取り入れることで健康づくりを実践できる方法を学ぶ講座を実施した。 開催日:3月7日(土) 対象:テーマに関心のある女性 講師:林 美穂(薬日本堂株式会社／医薬品登録販売者、骨盤調整ヨガインストラクター) 定員:30人→110人／参加者95人 ※申込者多数の為、定員を変更した。
--

■概要と成果

幅広い年齢の女性が健康について東洋医学を用いて学ぶ講座を実施し、定員の3倍近い応募があるなど大反響があった。ジェンダーの視点を入れるために、国際女性デーに近い日で開催し、講義前後で国際女性デーについても説明するなど、当協会で実施する意義を深めた。受講満足度は大変高く、女性の健康課題を改善する取組みの好事例となった。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援			条項	第3号
事業名	(1)啓発事業及び学習支援			事業企画課	
講座名	⑥ジェンダー論基礎講座				
目的	フェミニズムやジェンダーの基礎を身近な視点から丁寧に学び語り合える場を地域に創出する。				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	300	132	168		

■事業の計画

1. 実施内容
・ テーマに沿った専門家による有料連続講座(全3回～4回) ・ 専門家の講義部分のみ、後日有料配信
2. 事業実施における課題
・ テーマの内容について新しい視点を持った研究者の発掘 ・ 若年層を取り込むための工夫

■実績

『今、見えなくされている社会の話を』 第1回 1月24日(土)講師:鳥山純子(立命館大学教授) 「ジェンダー的視座を学ぼう—今ある、その格差を読み解く—」 第2回 2月21日(土)講師:田中東子(東京大学教授) 「ポストフェミニズムを探求する—分断とレジリエンスの政治—」 第3回 3月28日(土)講師:村上潔(立命館大学生存学研究所 客員研究員) 「葛藤を抱えつつ、つながりをつくる—都市空間におけるフェミニズムとDIYの可能性—」 全回参加者:47名

■概要と成果

4年間実施してきた当講座を見直し、ジェンダー的視座で社会課題を考察する内容を実施した。第1回・第2回で格差や分断を生む社会構造を掘り避けながら、第3回では、これからの希望として“都市のつながり”をZINEという手法を用いて学び合った。 講師の専門的であり分かりやすい講義は聞き応えがあり、後半の参加者同志のワークショップは、多様な意見が重なり合う、充実した時間となった。参加者には男性や若年層も多く、年代・性別を越えてジェンダー課題を学び合う講座が有料で開催できることが当協会の存在意義の一つであることを証明している。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援		条項	第3号	
事業名	(1)啓発事業及び学習支援		事業企画課		
講座名	⑦不安を抱える女性を対象とした就業支援事業				
目的	様々な事情で経済的な自立を希望しつつ、不安を抱える女性に対し、就業に関する様々な情報を提供することで、働くことに対する不安を払拭する。				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	1,005	1,005	0		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 仕事探しの方法や働き方に伴う社会保障、人間関係構築のコツなど、就労に必要な情報をわかりやすく提供するとともに、参加者同士で悩みを共有する場をもつ。 ・ マザーズジョブカフェやハローワークと連携し、具体的に就業を考えられる機会を提供する。
2. 事業実施における課題
・ 働くことへの不安を無くし、就労意欲を向上させる。 ・ 参加者同士で悩みを共有することにより、不安を軽減する。

■実績

女性のための経済的な自立支援セミナー 回数(3) 定員(各15) のべ応募者数(94) のべ参加者数(68) 定員充足率(151%) 受講後の就業状況 就業した:(4) 求職中(12) 【日程】10月27日(月)10:00~12:30 自分の収入で生きていくために ゆったりカフェ「私にとっての自立」 11月18日(火)10:00~12:30 自分らしい生き方をするための働き方と就職活動 ゆったりカフェ「就職活動の疑問と不安」 11月27日(木)10:00~12:30 信頼を築くコミュニケーション ゆったりカフェ「わたしのストレスケア」 【講師】本多真理子(国家資格キャリアコンサルタント、応対マナーインストラクター資格、メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種) 坪田景子(国家資格キャリアコンサルタント、コミュニケーション検定上級、メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種) 【対象】自立を目指す女性、働くことに不安を抱える女性 (単身・既婚問わず、市内在住・在勤・在学) 【協力】京都ジョブパークマザーズジョブカフェ 一般社団法人バンクフォースマイルズ コスメバンクプロジェクト
--

■概要と成果

経済的・精神的な自立を目指す女性を対象に、マインドセット、具体的な就活手法、対人スキルの3段階で構成した。特に人間関係のストレスケアや、アサーションなどの対人スキルを学んだ回では、「Iメッセージ」の活用やストレス解消法の共有が好評で、高い満足度が示された。

全回通して「ゆったりカフェ」と称した参加者同士の交流の場を設け、各回4～5名程度のグループに分かれて、参加者同士が悩みや経験を共有した。他の参加者の悩みや体験を聞くことで、「悩んでいるのは自分だけではない」と気づき、刺激や勇気を得られたという声が多かった。

マザーズジョブカフェにより、セミナー受講と同時に就労希望の登録ができた。受講後の就業状況の調査では、4人が就業し、12人が求職中であることから、座学だけでなく就職に向けての具体的な一歩を踏み出す機会となったといえる。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援		条項	第3号	
事業名	(2)企業・大学・地域との連携事業		事業企画課		
講座名	①性暴力予防啓発事業				
目的	性暴力とは何かを理解し、ハラスメントや性暴力が起こりそうな場面で被害を未然に防いだり、最小限にとどめる行動をとれるよう啓発する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	450	173	277		

■事業の計画

1. 実施内容

- ・性教育を土台として、性的同意、アクティブ・バイスタンダー(行動する傍観者)を関連づけた理解しやすい内容の講座を実施する

2. 事業実施における課題

- ・アクティブ・バイスタンダーになるための意識付け
- ・「性」について抵抗がある人にも関心を持ってもらうテーマ設定

■実績

男子高校3年生を対象に、性にまつわる意志を互いに確認する「性的同意」のレクチャーと性暴力を未然に防いだり最小限にとどめるための行動に役立つ「第三者介入」のワークショップを通して、性にまつわる課題への自覚と行動変容のきっかけづくりを行い、性暴力を容認しない風土の醸成を促した。

【開催場所】学校法人ヴィアトール学園 洛星高等学校

①性的同意講座 6月21日(土)11:25～12:10／参加人数:生徒220人

②第三者介入ワークショップ 7月5日(土)10:30～11:30／参加人数:生徒5人

■概要と成果

参加者の感想として、下記のような意見があった。

①性的同意

- ・同意の大切さを学んだ。
- ・自分の経験と重ねながら話を聞き、納得できる点が多く興味深かった一方で、理解はできても実践の難しさも感じた。

②第三者介入ワークショップ

- ・実践的なことを演技してみることができたのは自分にとって、本当に良かったです。また機会があれば参加したいです。
- ・まずは、友達への悪口とかに介入するところから、小さな勇気をだして頑張ります。
- ・感情で行動しそうなところを言葉で理論立てて説明してくれて、とても分かりやすかった。

性暴力予防啓発を学生や教職者の方に分かりやすくお伝えすることができた。参加者の声にもあるように知識を行動に移すことにはまだ弊害が多い。継続した実施が必要な取り組みの一つである。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援		条項	第3号	
事業名	(2)企業・大学・地域との連携事業		事業企画課		
講座名	②女子大生と考える女性活躍				
目的	女子大生が働き方の選択肢や視野を広げ、キャリアについて考える場を提供し、大学との協働により男女共同参画の加速化をめざす				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	200	67	133		

■事業の計画

1. 実施内容

- ・ 企業で活躍する女性ロールモデルによる座談会を開催し、ロールモデルと女子大生が直接交流できる場を提供する

2. 事業実施における課題

- ・ 大学やロールモデルが勤務する企業との円滑な連携
- ・ 「就職」に重点を置いたセミナーではなく、視野を広げ、働き続けることに意味を見出す機会とする

■実績

座談会 & ロールモデルとの交流会

ロールモデルに聞いてみよう！ ジェンダーから見たキャリア構築

回数(1) 参加者数(7)

【連携】 京都女子大学 ジェンダー教育研究所／京都女子大学 キャリア開発センター／京都商工会議所

【日時】 7月31日(木) 13:00～ 14:30

【会場】 京都女子大学 図書館1F交流の床

【参加者】4年生(1) 大学院生1年生(3)、 大学院生2年生(3)、合計(7)

【モデレーター】 久保田若菜 株式会社HINATAE代表取締役/40代

【ロールモデル】 山本あかね 株式会社RUBIA代表取締役/20代

村井裕美 スター食堂株式会社 レストランスター京極店料理長/30代

高木香那 株式会社レイズ取締役/40代

■概要と成果

商工会議所と連携し、ロールモデルに幅広い人材を選べたため、学生達に多様な経験談を提供できた。参加者は大学4年生・大学院1. 2年生が多く、就職活動に切実な学生が参加しており、ロールモデルの仕事ぶりやワーク・ライフ・バランスの考え方、困難を乗り越えた時の話を熱心に聞いていた。仕事の価値観や各年代で悩みを抱えた時の対応等、就活という点だけでなくもっと先をイメージした「仕事」について考える機会を提供できた。

交流会では学生の質問や悩みについてロールモデルが答えることを軸に展開したが、もっとざっくばらんな感じが良いという意見もあったため、意見を参考に検討する。また、今回は大学の前期最終日だったため授業もほとんどなく集客が難しかった。今後は、例年同様授業の1コマを提供してもらるか、授業が通常どおり行われている時期に開催したい。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援			条項	第3号
事業名	(2)企業・大学・地域との連携事業			事業企画課	
講座名	③LGBT等居場所づくり(コミュニティスペース及び個別相談会)				
目的	LGBT等の当事者やその周囲の人のための居場所づくり				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	270	200	70		

■事業の計画

1. 実施内容
・ LGBT等の当事者やその周囲の家族や友人等が理解ある空間で集う場「京都まあぶるスペース(コミュニティスペース)」を関係団体と連携し提供する(京都市:年4回程度) また、併せて個別相談会を実施する ※京都市・亀岡市・長岡京市・向日市 共催事業として各市で実施
2. 事業実施における課題
・ ニーズにあったテーマ選択 ・ 関係団体との円滑な連携 ・ 市民ぐるみ「多様な性の在り方が尊重される京都」推進ネットワークとの連携

■実績

京都まあぶるスペース&個別相談会

【対象】 LGBT等の当事者又はそうかもしれない方、

LGBT等について理解を深めたい方、ご家族、支援者

各回の個別相談は、まあぶるスペースと同じ日に時間帯を15時・16時とずらして、1人50分間実施した。

第1回 ライフストーリーについて(当事者の体験談)

回数(1) 定員(20) 応募者数(12) 参加者数(14) 定員充足率(70%)

個別相談(2)

【日時】 6月29日(土)14:00~16:00

【講師】 阪部すみと(つながりカフェ代表/Tsunagaryオフィス合同会社最高執行責任者)

第2回 パートナーシップ宣言制度について

回数(1) 定員(20) 応募者数(12) 参加者数(8) 定員充足率(40%)

個別相談(2)

【日時】 8月23日(土)14:00~16:00

【講師】 本多まさ(プライドプロジェクト代表)

第3回 カミングアウトについて

回数(1) 定員(20) 応募者数(11) 参加者数(9) 定員充足率(45%)

個別相談(0)

【日時】 11月29日(日)14:00~16:00

【講師】 いよたみのり(特定非営利活動法人MixRainbow 理事長)

第4回 性的少数者のことを理解し、支援する取組について

回数(1) 定員(20) 応募者数(11) 参加者数(9) 定員充足率(45%)

個別相談(1)

【日時】 12月13日(土)14:00~16:00

【講師】 山本超基(関西アライモ実行委員長)

■概要と成果

各回とも、10名前後の参加があり、参加者はゆったりと安心した雰囲気の中で、他の参加者やファシリテーター等と意見交換ができた。普段話せないようなこともこの場では話すことができ、考えを共有することで満足感を得られたようだ。

テーマがカミングアウトの回は特に関心が高く、自身のカミングアウト体験を語りたいという参加者もいた。このように当事者として自身の体験や経験を語る場を求める傾向もあるため、参加者が語り手となるヒューマンライブラリーのような機会について検討したい。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援		条項	第3号	
事業名	(3)教養・健康増進事業		事業企画課		
講座名	①運動講座・うた講座・その他教養講座				
目的	生涯にわたり健康と生きがいを維持できるよう、市民のニーズに応えたさまざまな講座を開催する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	6,820	6,265	555		

■事業の計画

1. 実施内容

- ・ 運動講座(8コース×3期=24コース)
- ・ うた講座(5コース×3期=15コース)
- ・ 朗読講座(1クラス×2期)

2. 事業実施における課題

- ・ フィットネスルーム工事に伴う2ヵ月間(5～6月)の休講による影響への対応
- ・ リピーターによる受講者の確保
- ・ 新規受講者の獲得

■実績

<別紙3>「運動実技講座・うた講座・朗読講座」(p.57～60)

■概要と成果

大規模工事によりフィットネスルームを約2ヵ月閉室したため、運動講座の講座回数が前年度に比べ29回減り約120万円と大きな減収となったが、うた講座の講座回数が年間で13回増え、さらにコーラス講座の受講人数が増えたため、運動講座の減収を少しカバーすることができた。今後もより良い講座内容にし、リピーターの確保に努める。

公益1	(単位:千円)				
定款	男女共同参画社会の実現を目指す取組の普及促進のための広報、啓発及び学習支援		条項	第3号	
事業名	(4) 保育事業		事業企画課		
講座名	①事業参加者の保育・施設利用者の保育				
目的	講座保育・一時保育事業を行い、子育て中でも安心して学習や研修に参加、あるいは相談室利用ができる環境を提供する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	350	122	228		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 事業参加者の保育／施設利用者の保育 4ヵ月以上就学前までの子ども対象
2. 事業実施における課題
・ 保育委託先との円滑な連携

■実績

<別紙4>「保育事業」p.61

■概要と成果

保育事業を(公財)シルバー人材センターと協働するようになって2年目となるが、運営会議などで情報共有し、安心・安全な保育が実施できた。 講座保育の保育回数は前年度の半数以下となったが、相談保育は前年度1回だったのが、14回に増えるなど、新たなニーズが生まれている。

公益2	(単位:千円)			
定款	男女共同参画に関する相談	条項	第4号	
事業名	(1)相談業務	事業企画課		
講座名	①女性のための相談／②男性のための相談			
目的	男女共同参画に関わる市民の多様な相談ニーズに対応し、相談者自身が悩みの背景を認識し、自己を肯定して問題解決を図っていけるようサポートする			
	予算額	執行額	差額	会計 公益目的事業
事業費	14,824	14,019	805	

■事業の計画

1. 実施内容

- ①女性のための相談
(電話・面接・女性への暴力相談・法律相談)
- ②男性のための相談
(電話・面接相談)

2. 事業実施における課題

- ・ 多様化する悩みや問題に適切に対応するスキル習得
- ・ 男女共同参画の視点を持った相談員の育成

■実績

種類		2025年度	2024年度	前年比
女性のための 相談	電話	981	920	107%
	予約電話	139	127	109%
	面接	560	522	107%
	法律	39	39	100%
	女性への暴力	48	68	71%
小計		1,767	1,676	105%
男性のための 相談	電話	52	53	98%
	予約電話	63	56	113%
	面接	147	146	101%
小計		262	255	103%
合計		2,029	1,931	105%

■概要と成果

- ・2025年度の相談件数は2,029件を受理し、前年比105%となった。ただし「女性の暴力」は減少傾向にあり前年比71%にとどまった。「男性面接相談」が増加傾向にあり、予約が取れない状況にあったため、次年度枠数の増加にともなう体制を整えた。
- ・相談室につながるためツールとして24時間対応できる「チャットボット」の導入を検討し、次年度からの実施にむけ体制を整えた。

公益2	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する相談	条項	第4号		
事業名	(2)相談事業	事業企画課			
講座名	①大学相談室派遣事業／②相談員研修				
目的	①大学内の相談室に相談員を派遣し、相談者の問題解決を支援する ②相談員のスキルアップを図る				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	1,620	790	830		

■事業の計画

1. 実施内容
①佛教大学の委託を受け、学生や教職員対象のハラスメント相談室に相談員を派遣する(月5～6回) ②相談員を対象に事例検討会や研修を実施する
2. 事業実施における課題
・さまざまなハラスメント事例に対応できる職員の体制づくり ・男女共同参画の視点での問題解決の落とし込み

■実績

①佛教大学においてハラスメント相談室に来所する学生・教職員の相談に応じるため、1名の相談員を派遣した。(月・木曜日 各月3回 12:30～16:30) ②・相談員を対象にスーパーバイザーによるグループスーパービジョンを実施した。(10回 13:30～15:30) ・相談員を対象とした研修を受講した。＜別紙7＞「2025年度研修一覧」(p65) ・他機関からの依頼を受け講師・委員を請け負った。(同上)
--

■概要と成果

①佛教大学ハラスメント相談室において、学生や教職員の相談に応じた。中でも教職員からの相談が増加し学内で受けるハラスメント相談の構造上の難しさがうかがえた。 ②・事例を題材に相談員対象のグループスーパービジョンを10回実施した。バイザーによる丁寧なアドバイスをもとに年間を通して学んだ。 ・他機関で実施された研修に相談員が参加した。ほぼオンデマンドによる視聴であったため各自が効果的に受講できた。 ・他機関の依頼を受け人権研修の講師や相談事業に関する委員会の委員を請け負った。他機関の取り組み等を知る良い機会となったことや、他機関連携にも寄与した。
--

公益2	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する相談			条項	第4号
事業名	(2)相談事業			事業企画課	
講座名	③DV被害当事者のための自立支援事業				
目的	DV被害者が、専門家の助言を得ながら、当事者同士で語り合い、互いに受容しあうことを通して、人が本来持つべき自尊感情を取り戻すことにより、心身の回復を促す				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	230	112	118		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 講義とアドバイザーを交えたグループでの語り合い(全3回) ・ 必要に応じてアフター会を実施(3回程度)
2. 事業実施における課題
・ 潜在的な対象者へのアプローチと参加者確保 ・ 関連機関との連携

■実績

「わたしが私でいるために」 回数(3) 定員(15) のべ参加者数 (15) 定員充足率(33%) 【日時】6月7日(土)・6月21日(土)・7月5日(土)10:00～12:00 【対象】DV被害を受けた女性で加害者と別居中の方 【講師】竹之下雅代(ウィメンズカウンセリング京都) 【内容】第1回 わたしの身に起きたこと～DVを理解する 第2回 わたしは大切な存在～自己尊重を学ぶ 第3回 わたしは「私」～私の力を取り戻す 「アフター会」(1) 参加者1名だったため、2回目以降の実施を取りやめた。 【日時】8月9日(土)10:00～12:00 【講師】竹之下雅代(ウィメンズカウンセリング京都)

■概要と成果

応募者は8名で、参加者5名で実施した。そのうち4名は当相談室からの紹介であった。今回、相談室でも増加傾向にあるデートDV被害の20代女性が参加され、性的自己決定権や心の基本的権利について学ぶ機会を提供できたことは意義があった。 講座終了後のアフター会に関しては参加希望者が少なく、2回目以降は実施できなかった。今回のように参加者が少ない時はグループとして一つにまとまることも難しく、アフター会のような自主的な活動につながらない。本講座への参加者のニーズも変化してきているのかもしれない事業の再考が必要であるように感じた。
--

公益2	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する相談			条項	第4号
事業名	(2)相談事業			事業企画課	
講座名	④トラウマ・ケアの読書会				
目的	DV等の性暴力被害のトラウマを抱えている人を対象に、読書と感想の共有を通して心身の回復を促すとともに、安心して集える「居場所」を提供する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	380	241	139		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 読書を通じて、トラウマの影響や自分を大切にするセルフ・ケア等を学ぶ(年10回)
2. 事業実施における課題
・ 参加者にとって安心・安全な場の提供 ・ 関連機関との連携

■実績

【日時】日時は参加者のみに通知(8月と1月を除く月1回)全10回 回数(10) 定員(15) のべ応募者数(167) のべ参加者数(100) 年齢構成割合 20代～70代前半まで 【講師】ウィメンズカウンセリング京都 竹之下雅代 《テキスト》 『複雑性PTSDの理解と回復』アリエル・シュワルツ／著 野坂祐子／訳 金剛出版 『トラウマのことがわかる本』白川 美也子／監修 講談社
--

■概要と成果

本事業は読書を通じた心理教育と語り合いを組み合わせた支援の場であり、参加者に安心・安全感を持ってもらえることを最も大切にして運営している。申し込みの際不安定な状態であったり、講座に参加できる状況ではない方の見極めや適切な支援につなぐ必要性の判断については、相談室との連携で対応した。参加者それぞれの回復状態が異なる中、互いの経験を過度に聴いて不安を感じることがないように「読んだ内容」についての感想を話すことを前提とし、適度に自己開示しつつ安心・安全な場を維持している。何度も申し込みながら一度も参加できない方もおられ、被害と向き合うことの困難さがあるため、参加人数だけでは事業の評価がしづらく、やっと参加した方から「申し込むまでに3年かかった」「こんな会があると知って、いつか参加したいとずっと思っていた」との声がある。

特筆することとして、本年度は日本フェミニストカウンセリング学会京都大会の分科会にて実践報告を行う機会を得た。前身であるDV被害者自立支援事業のアフター会から、居場所づくりとしての「トラウマ・ケアの読書会」立ち上げに至るまでのウイングス京都の支援を専門的見地から共有する貴重な機会となり、関係機関からの問い合わせ増加にもつながっている。

今後の展望としては、「被害者支援」という特定の枠組みから一歩踏み出し、将来的に困難を抱える女性全般を包括する「サードプレイス(第三の居場所)」としての機能移行を目指していく。特定の属性や経験に限定されず、誰もが一人の人間として肯定され、緩やかなつながりを享受できる場へと発展させることで、地域における孤立防止に広く寄与したいと考えている。自己を語り、他者に受容されるプロセスは、参加者が社会的な安心感を取り戻すための確かな一助となっている。今後も、家庭や職場とは異なる「もう一つの安心できる居場所」を地域社会に定着させ、誰もが尊重され、その声を聴き合える場の拡充に努めていきたい。

公益2	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する相談			条項	第4号
事業名	(2)相談事業			事業企画課	
講座名	⑤不安を抱える女性に寄り添った相談支援事業				
目的	コロナ等による孤立や孤独で不安や困難・課題等を抱える女性に寄り添い、社会とのつながりを回復する。				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	4,000	4,000	0		

■事業の計画

1. 実施内容
不安を抱える女性に寄り添った相談事業、またその一環として、居場所づくり事業と支援団体の勉強会&情報交換会を実施する。
2. 事業実施における課題
・ 対象に届くための効果的な広報 ・ 対象に適した情報提供や居場所の提供 ・ 支援団体同士の連携

■実績

●居場所づくり事業 つながるスペース 女性のための更年期ケアセミナー もっとごきげんに快適に 回数(1) 定員(30) 応募者数(45) 参加者数(41) 定員充足率(137%) 【日時】 9月7日(日)13:30~16:00 【講師】 池田裕美枝(医療法人心鹿会 海と空クリニック京都駅前 院長) 【対象】 更年期障害に不安のある女性 *京都市在住・在勤
--

■概要と成果

●居場所づくり事業 参加者は更年期症候群の症状に悩んでいる40~60代前半に集中した。女性のリプロダクティブ・ヘルス&ライツ「性と生殖に関する健康と権利」と「体の自己決定権」について詳しく説明を聞いた後、女性の健康について考えたため、自分を主体として自身の健康と向き合うことができた。また、交流会では参加者同士でお互いの症状や悩みを共有したり、講師からアドバイスをもらうことで、自分にあった更年期症状の対処法を見つけることができた。
--

公益2	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する相談		条項	第4号	
事業名	(3)関係機関連携／苦情・要望等処理制度の受付		事業企画課		
講座名	①関係機関連携／苦情・要望等処理制度の受付				
目的	・ 相談に関わる機関との連携により、支援機関の相互交流と、支援員の資質向上を図る ・ 京都市男女共同参画苦情・要望等処理制度の受付を行う				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	30	10	20		

■事業の計画

1. 実施内容

- ・ 女性のための相談ネットワーク会議(年2回)
- ・ 配偶者等からの暴力に関するネットワーク京都協議会
- ・ 京都犯罪被害者支援連絡協議会・性犯罪被害者対策研究分科会
- ・ 京都市域におけるDV被害者支援団体交流会
- ・ 京都ストーカー総合対策ネットワーク連絡会議
- ・ 苦情・要望等処理制度の受付

2. 事業実施における課題

- ・ 各機関同士の連携強化

■実績および■概要と成果

- ・ 女性のための相談ネットワーク会議
 - (1)「特殊詐欺の現状と対策」 8月1日(金)3名参加
 - (2)「精神疾患の理解と対応」 1月26日(月)2名参加
- ・ 配偶者等からの暴力に関するネットワーク京都協議会
 - 代表会議 10月2日(木)1名参加
 - シンポジウム 11月13(木) 7名参加(リアル参加+オンデマンド視聴)
 - 実務者会議 事例検討 2月9日(月)1名参加
- ・ 府市連携事業 男性相談員のための人材育成講座 11月7日(金)2名参加
- ・ 第13回京都ストーカー総合対策ネットワーク会議 11月18(火)1名参加

公益3	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する市民の活動の支援 及び相互交流の促進			条項	第5号
事業名	(1)地域コミュニティ活性化の促進事業			総務課/事業企画課/総合窓口課	
講座名	①センター利用者や地域との協働事業				
目的	地域団体等と連携し地元との関わりを深めるとともに、ウイングス京都とその 役割への認知度向上を図る				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	20	5	15		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 京都市男女共同参画市民会議運営懇談会との連携 (男女共同参画に関する講座への参加、情報発信) ・ 地元との連携強化(高倉小学校の活動紹介(KES活動)、自主防災会・夜間パト ロールへの協力等) ・ センター利用者などによるロビーでの常設展示やイベントなどの開催
2. 事業実施における課題
・ 各団体との円滑な連携

■実績

1. 京都市男女共同参画市民会議運営懇談会との連携
2. 京都市防災危機管理室、地域力推進室防災担当との連携
 - ・11月1日(土)京都市総合防災訓練での啓発展示(1回)
 - ・12月7(日)下京区総合防災訓練での啓発展示(1回)
 - ・京都市防災ポータルサイトへの情報提供
(KYOTOわたしの防災ノートの掲載、京都市防災パークのページにウイングス京都の防災に関する講座や発行物を掲載)
3. 男性相談人材育成講座
回数(1) 参加者数(24) 会場(13) オンライン(11)
【日時】11月7日(金)14:00～16:30
【場所】ウイングス京都セミナー室AB
【対象】男性相談に関心のある京都府内の対人援助職者及び担当者
【講師】西井開(一般社団法人UNLEARN・臨床心理士・公認心理師・京都府・京都市男女共同参画センターの男性相談員)
【内容】「ジェンダー規範を揺り動かす男性相談へ向けて」
 - 1部 講義
 - 2部 事例検討会(会場でのグループワーク)
4. 地元との連携強化
 - ・高倉小学校の活動紹介(KES活動)
 - ・日彰自治連合会への活動参加(夜間巡回パトロール等)
5. ロビー常設展示…展示団体数のべ3団体

■概要と成果

1. 京都市男女共同参画市民会議運営懇談会との連携
京都市男女共同参画市民会議運営懇談会で「令和6年度男女共同参画市民意識調査」について京都市より説明
2. 京都市防災危機管理室、地域力推進室防災担当との連携により、市民に向け、男女共同参画の視点を入れた防災について啓発でき、「きょうとみんなの防災カード」についても伝えられたため、自主防災会等での活用につながった。
3. 府市連携事業として実施
男性相談に関わる人を対象に男性問題についての「学び直し」の機会を提供した。前半の講義では「男性性の問題」や「男性特権」についても触れ、後半のグループワークでこれまでにない相談者との対話の可能性を見出せた。
4. KESの啓発活動として高倉小学校で育てている野生種のヒオウギの展示と紹介を行っており、小学校との連携を続けている。また、日彰自治連合会の会合やパトロールに参加することで自治連合会の方々と顔の見える関係づくりができた。
5. 工事により8月末まで常設展示会場が利用できなかったことなどにより、展示団体数が前年度の7団体から減少した。

公益3	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する市民の活動の支援 及び相互交流の促進	条項	第5号		
事業名	(1)地域コミュニティ活性化の促進事業	事業企画課			
講座名	②パープルリボンの取り組み他				
目的	「女性に対する暴力をなくす運動」期間(11/12～25)に合わせて、11月をパープルリボン月間と定め、女性をはじめ、あらゆるジェンダー・セクシュアリティを持つ人への暴力根絶について市民に啓発する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	500	437	63		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 11月のパープルリボン月間中に、イベントや展示をととして市民が様々な視点から、女性をはじめ、あらゆるジェンダー・セクシュアリティを持つ人への暴力根絶について考える機会を提供する
2. 事業実施における課題
・連携する団体との関係を維持し、広く市民に訴えることができるイベントの開催 ・マジョリティが暴力の問題を主体的に考えられる企画

■実績

テーマ:暴力に抗して～街で知る、つながる、考える～期間:11月1日(土)～11月30日(日) <知る>パープルガーデン 期間:11月9日(日)～30日(日) 御射山公園を始め、近隣店舗等に紫の花の整備とパープルリボンを掲示し、“暴力の根絶”という想いを街に広げた。 地域連携の取組みとして日彰小学校の園芸部約20人と市民や当協会の講座参加者約10人がガーデナーとともに花を植えた。ナチュラルスティックガーデンで植物を整備するなど環境問題に配慮した内容を取り入れ、公園を拠点とした地域連携の礎となる取組みとなった。 <つながる>写真展/フォトモザイクアート/施設利用者の作品 ○STAND Still 性暴力サバイバービジュアルボイス写真展 期間:11月13日(木)～24日(月) 性暴力サバイバーが撮影した写真を通して、ステレオタイプではない被害者像を知り、サバイバーへの支援と理解を深めた。 ○フォトモザイクアート 期間:11月1日(土)～30日(日) 市民から昨年集めたパープルのアイテムの写真でパープルリボンをモチーフにしたフォトモザイクアートを掲示した。

○施設利用者の作品と声

期間:11月1日(土)～30日(日)

施設を利用されている4団体にパープルリボンをイメージした紫のお花をロビーに展示していただいた。

また、暴力根絶の想いを言葉にして花びら型の用紙に書いて頂き、ロビーに掲示した。

＜考える＞

パープルトーク「今、考える、子どもの性暴力とその対策～日本版DBSの先にある未来～」深刻化する子どもの性暴力の実情と対策を知り、長年議論されてきた日本版DBSについて学び、子どもが安心して成長する社会について必要なことを考える機会提供を行った。

開催日:11月22日(土)13:30分～15:00

講師:赤坂緑(認定NPO法人フローレンス代表理事)／永守すみれ(ひいらぎネット代表)

コーディネーター:中村葉子(弁護士)

参加者:38人

＜関連＆コラボ企画＞

京都市青少年活動センターコラボ企画「誰かのピンチ、あなたならどうする？レッツ“5D”アクション！カードガチャ」

京都市中央青少年活動センターで第三者介入の手法「5D」をカードガチャで学べるワークショップイベントを実施した。ハラスメントや暴力が起きそうな場面において第三者としてどのような行動ができるかを考えた。

開催日11月13日(木)16:00～17:00(京都市中央青少年活動センター)

【対象】中学生～30歳 【参加者】11名

■概要と成果

1階(ロビーやギャラリースペース)が次年度からは使えなくなることを想定し、ギャラリースペースを利用し、ロビーの交差性を発揮しながら施設利用者と市民の声をつなげる展示企画を実施した。また、公園を利用した地域連携を試みるなど、未来につながる取組みにもチャレンジできた。パープルトークは会場に集うことでより理解が深まる内容となり、大好評だった。オンラインを実施しなかったため参加者数は例年より少なくみえるが、会場参加者は例年を上回った。

パープルリボンの認知度は高いと言えず、暴力根絶やジェンダー平等までに道のりが長いように感じるが、ウイングス京都らしさと地域性を掛け合わせて、暴力根絶への想いを広げる1ヶ月となった。

公益3	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する市民の活動の支援 及び相互交流の促進		条項	第5号	
事業名	(2)人材・団体育成事業		事業企画課		
講座名	①市民活動サポート事業				
目的	男女共同参画社会の実現に向けた取組や企画をもつNPOやグループに対し、 助成を行い、地域における男女共同参画の推進を図る				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	338	203	135		

■事業の計画

1. 実施内容

- ・ 男女共同参画の推進に関わる活動をしているNPOやグループなどの企画に対し助成し、男女共同参画の実現を目指す多様な事業をサポートする

2. 事業実施における課題

- ・ 市内のNPOやグループの発掘と対象者への効果的な広報
- ・ サポート団体の企画実施に向けた適切な支援

■実績

応募のあった2団体の内、1団体に助成を行った。
(一社)LEO-G 戦争・暴力に抗う「連帯」とジェンダー 127,174円

■概要と成果

戦争・暴力に抗う「連帯」とジェンダー

戦争・暴力に抗う「連帯」について —ジェンダーの視点から権力構造を考える—
回数(1) 定員(50) 参加者数(37) 定員充足率(74%)

【日時】 11月24日(月・祝)13:00~15:30

【講師】 清末愛砂(室蘭工業大学大学院教授)

【内容】 戦争・暴力の背景にある権力構造について、講師の専門の憲法の視点、ジェンダーの視点で考えた。その後、3~5人の6つのグループに分かれ、講演を聞いた感想や講演から想起された参加者自身のジェンダーについて話し合った。

市民活動サポート事業の応募団体が2団体と少なかったため、次年度は団体が応募しやすく、助成金や支援を活用しやすくなるよう、応募要項の内容を見直す。

公益3	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する市民の活動の支援 及び相互交流の促進			条項	第5号
事業名	(2)人材・団体育成事業			事業企画課	
講座名	②防災リーダー育成事業				
目的	防災分野で男女共同参画の視点を持って活躍できる人材を育成する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	310	46	264		

■事業の計画

1. 実施内容

- ・ 行政の防災担当部署等との連携により、地域の人々に向け防災における男女共同参画の重要性を伝えるとともに、「きょうとみんなの防災カード」を活用したワークショップを実施する

2. 事業実施における課題

- ・ 防災担当部署や関連団体を巻きこんだ啓発の機会の創出
- ・ 地域での「きょうとみんなの防災カード」の普及促進

■実績

1. 防災リーダー育成「女性消防団員意見交換会」(共催:京都市消防局)
 - 【日時】7月26日(土)9:30~12:00
 - 【会場】ウイングス京都 2階セミナー室AB
 - 【対象】京都市内で活動する女性消防団員(39人)
 - 【講師】公益財団法人京都市男女共同参画推進協会 久保智里
 - 【グループホスト】第12期消防団充実強化実行チーム
 - 【内容】講義「男女共同参画&多様な視点で災害に備える」/防災カードワークショップ
2. 京都市総合防災訓練
 - 【日時】11月1日(土)11:00~15:30
 - 【会場】岡崎公園周辺
 - 【対象】京都市民(参加者約300人)
 - 【内容】市民防災啓発ブース出展「男女共同参画の視点で災害に備える」
『きょうとみんなの防災カード』参加型展示(6種類)
『KYOTOわたしの防災ノート』『男女共同参画通信』等配布
3. 下京区総合防災訓練『下京区防災フェア』
 - 【日時】12月7日(日)10:00~12:00
 - 【会場】北総合支援学校中央分校
 - 【対象】下京区民(区内23学区)、下京ジュニア消防団、その他当日参加者272人
 - 【内容】みんなにやさしい避難所を考えるWS(参加者数117人)
『きょうとみんなの防災カード』ガチャ(子ども版・16種類)
『きょうとみんなの防災カード』参加型展示(4種類)
『KYOTOわたしの防災ノート』『男女共同参画通信』等の配布

■概要と成果

本事業は、多様な主体との協働や住民との対話を通じ、地域において「男女共同参画の視点」を持って身近な防災課題にアプローチできるリーダーを育成することを目的として運営している。

1. 防災リーダー育成「女性消防団員意見交換会」(協働:京都市消防局)

今年度は京都市消防局との協働により、第12期消防団充実強化実行チームが取り組む女性消防団員意見交換会において防災カードワークショップを実施した。入団動機や活動歴の異なる団員が幅広く一堂に会し、女性ならではの視点や活動課題を共有する貴重な機会となった。アンケートでは、防災カードの解説と意見交換が特に刺激になったと好評で、満足度は9割に達した。「活動意欲が高まった」等の前向きな感想が多く寄せられ、地域のリーダーとしての意欲向上と、分団の枠を超えたネットワーク形成を促す確かな一助となった。今後は、要望の多い「実践的な学びの場」を定着させるため、防災関連機関はもちろん、地域の多様な主体との連携を強化していきたい。

2. 3. 総合防災訓練での市民啓発ブース出展

地域住民への広範な啓発として2つの総合防災訓練へ出展し、参加型展示や各種資料配布を通じて多角的な啓発を展開した。下京区防災フェアでは子ども版カードを新たに制作し、カードガチャを用いたワークショップを実施した。この試みは集客や対話のきっかけとして非常に有効であり、子どもたちが楽しむ一方で、同行した大人の参加者からも対話を引き出し、多様な視点の重要性に気づいていただく機会となった。一方で、ガチャの工程の多さから職員の対応が手一杯となり、市民の深い困りごとまで聞き取る対話に至らなかった運営上の課題も見えた。今後はブースの配置や役割分担などの「対話の導線」を工夫・改善し、限られた時間内でもより深い対話ができる体制を検討したい。

今後も、誰もが尊重され、多様な視点を持って地域で備え合い、声を聴き合える社会の拡充に向けて、男女共同参画の視点を持つ防災リーダーの育成と、その基盤となる防災啓発の推進に努めていきたい。

公益3	(単位:千円)				
定款	男女共同参画に関する市民の活動の支援 及び相互交流の促進	条項	第5号		
事業名	(2)人材・団体育成事業	事業企画課			
講座名	③共催・後援事業／④講座受講者のグループ育成や相互交流				
目的	③男女共同参画推進に関わる事業等を実施する機関やNPOと協働し、会場 提供や広報協力を通じて事業の推進を支援する ④講座受講者のグループ育成や相互交流を支援する				
	予算額	執行額	差額	会計	公益目的事業
事業費	88	10	78		

■事業の計画

1. 実施内容
・ 男女共同参画社会の実現に向けた企画について共催・後援を行う ・ 講座から発生したグループの支援や受講者間の交流や情報共有を支援する
2. 事業実施における課題
・ 協働団体との連携 ・ グループ化を目指したサポート、グループへの関連テーマの情報提供

■実績

・共催事業 4件 1. ピンクリボン京都2025 ピンクリボンセミナー 【主催】ピンクリボン京都実行委員会 【日時】10月25日(土) 13:30～16:00 参加者数(74) ※実施後にYouTube配信あり 2. ジェンダー平等な社会をめざす公開講座 “男らしさ”の当たり前を問い直す —男子校での実践からジェンダー平等とDV防止を考える— 【主催】NPOびーらぶ京都 【日時】11月2日(日)13:30～16:00 参加者数(27) 3. 映画『五月の雨』自主上映会 in 京都 【主催】京都の男女共同参画社会を考える会 【日時】2月1日(日)14:00～16:00 参加者数(36) 4. CARE専門家向けワークショップ in Kyoto 【主催】PCIT & CARE関西研究会 【日時】3月29日(金)10:00～16:00 参加者数(17)

■概要と成果

民間団体や専門組織との柔軟な連携を通じ、健康増進、ジェンダー平等、社会福祉等の今日的な諸課題に対応した4件の共催事業を実施した。

1. 専門医や当事者が登壇し、乳がんの早期発見・治療の重要性を啓発した。後日YouTube配信による事後学習の機会も提供した。
2. 男子校での実践例から「男らしさ」の固定観念を問い直し、DV防止や平等な社会のあり方を27名の参加者と共に考察した。
3. 法改正に伴う共同親権導入がDV被害者や子に及ぼす影響を当事者の視点で描いた映画の上映と弁護士による解説を実施し、制度の課題と男女共同参画社会における安全確保の重要性について理解を深める機会を創出した。
4. 子ども家庭庁も推奨する養育支援プログラム「CARE」の支援者育成研修を行った。本プログラムは、男女を問わず良好な関係を構築する技法を習得できるため、子育てにおける男女共同参画に極めて有効とされ、専門職を対象に実施できたことは、地域における支援体制の質的向上に資する取り組みとなった。

いずれの事業も、各団体の専門性と本会の広報基盤を相互に活用することで、効果的な啓発と専門知識の共有を実現できた。今後も多様な主体とのパートナーシップを深め、より豊かで包摂的な地域社会の形成を推進したい。

公益3	(単位:千円)				
定 款	男女共同参画に関する市民の活動の支援 及び相互交流の促進		条 項	第5号	
事業名	(3)京都市男女共同参画センターの目的利用 団体に対する施設管理業務		総務課		
目 的	京都市の指定管理者として、京都市男女共同参画センターの施設管理業務を 円滑に行い、男女共同参画の推進拠点として市民の生活に根差した活気ある センターを目指す				
	予算額	執行額	差 額	会 計	公益目的事業
事業費	36,589	37,610	△ 1,021		

■事業の計画

1. 実施内容

- (1) 施設の維持管理
 - ・ 大規模整備工事への対応
 - ・ 京都市男女共同参画センターの施設・設備の維持管理
- (2) 男女共同参画社会実現の目的に即して活動する団体の育成、支援のため、
目的利用団体として登録し、優先的に施設の貸出しを行う
- (3) KES環境マネジメントにおける環境改善(目標)
 - ・ コンタクト空ケース回収(HOYA株式会社と連携)
 - ・ ジェンダー平等を実現しよう(SDGs(持続可能な開発目標)の目標5)
パネル展示、ブックフェア等でジェンダーに関する学びの
場を設ける
 - ・ 環境保全 近隣の高倉小学校と連携し環境保全に努める
同校の保全活動を紹介し、施設利用者への啓発を行う
- (4) サービス向上
 - ・ 利用者の利便性に配慮した予約方法の検討と実施
 - ・ より使いやすい施設利用の検討及び実施
- (5) 危機管理・消防訓練・防災計画
 - ・ 避難訓練の実施と、防災マニュアルの適宜見直し
 - ・ 避難所・妊産婦等福祉避難所開設の準備(行政・自治連合会との連携、
訓練への参加・備蓄品の保管等)

2. 事業実施における課題

- ・ 安心・安全な利用環境に向けた修繕箇所のチェックと提案
- ・ 工事に伴う利用者の安全確保とわかりやすい案内表示

■実績

- (1) 施設の維持管理
 - ・大規模整備工事やトイレ改修工事の工事工程に沿って、適切に利用者対応を行った。
 - ・老朽化による故障による修繕が多くなっているが、京都市と調整しながら、対応した。
 - ・センターの老朽化について、点検報告書とともに状況を京都市に報告した。
- (2) 男女共同参画社会実現の目的に即して活動する団体の育成、支援のため、目的利用団体として登録し、優先的に施設の貸出しを行った。
＜目的利用登録団体＞ 39団体（前年度:42団体）
＜目的利用事業＞ 4件（前年度:5件）
- (3) KES環境マネジメントにおける環境改善
 - ・コンタクト空ケース回収 105%達成
 - ・ジェンダー平等を実現しよう(SDGs(持続可能な開発目標)の目標5) 100%達成
 - ・ジェンダー平等に関する学びを深めるためのブックフェアやパネル展示を実施
 - ・啓発活動 100%達成近隣の高倉小学校と連携し、小学校で栽培している野生種のヒオウギをウィングス京都のロビーに展示するとともに、育て守る活動を紹介し、施設利用者への環境保全への啓発を行った。
- (4) サービス向上
利用者への親切な対応と丁寧で分かりやすい説明を心掛け、親しみやすい雰囲気づくりを行った。
- (5) 危機管理・消防訓練・防災計画
京都市ユースサービス協会と連携し、消防訓練を実施した。(2月25日)

■概要と成果

- (1) 大規模工事やトイレ工事の状況に応じて、利用者への案内と誘導を適切に行ったため、利用者の安全を確保でき、トラブルなく工事を終えることができた。
- (2) 高齢化等により解散する団体があり、目的利用登録団体数がさらに減少した。新規登録団体の獲得が今後の課題である。
- (3) KES環境マネジメント確認審査合格
- (4) 一般利用団体のうち、登録条件を満たす新規団体に登録カードを発行したことで、利便性が高まりリピーターの確保につながった。
- (5) 消防訓練後、訓練の様子を確認していた消防隊員から直接指摘やアドバイスをもらい、職員の意識づけやマニュアル改定につながった。

収 益	(単位:千円)				
定 款	収益事業				
事業名	京都市男女共同参画センターの目的利用 団体以外に対する施設管理業務			総務課	
目 的	京都市の指定管理者として、京都市男女共同参画センターの施設管理業務を円滑に行い、男女共同参画の推進拠点として市民の生活に根差した活気あるセンターを目指す				
	予算額	執行額	差額	会計	収益事業
事業費	61,228	57,579	3,649		

■事業の計画

1. 实施内容

- (1) 施設の維持管理(再掲)
- (2) 目的利用以外の団体に対し、施設の貸出しを行う
- (3) KES環境マネジメントにおける環境改善(目標)(再掲)
- (4) サービス向上(再掲)
- (5) センターの認知度向上
SNSを使った広報の充実(Facebook・X・note等の活用)
- (6) 危機管理・消防訓練・防災計画(再掲)

2. 事業実施における課題

- ・ 安心・安全な利用環境に向けた修繕箇所のチェックと提案
- ・ 工事に伴う利用者の安全確保とわかりやすい案内表示

■実績

- (1) 施設の維持管理(再掲)
- (2) 施設利用率(日数利用率) 78.3%
入館者数 253,662人
＜別紙5-1＞「2025年度 京都市男女共同参画センター利用状況」(p.62)
＜別紙5-2＞「2025年度 京都市男女共同参画センター利用状況(時間帯別)」
(p.63)
- (3) KES環境マネジメントにおける環境改善(目標)(再掲)
- (4) サービス向上(再掲)
- (5) 事業や施設に関する情報をSNSで発信し、参加や来場を促すとともに、センターの認知度向上に努めた。
- (6) 危機管理・消防訓練・防災計画(再掲)

■概要と成果

大規模工事やトイレ工事の状況に応じて、利用者への案内と誘導を適切に行ったため、利用者の安全を確保でき、トラブルなく工事を終えることができた。

ただ、工事に伴い一部施設を閉鎖したことで、年間の入館者数が2024年度の3割減となった。2026年度もレイアウト再編工事の影響が大きく、さらに来館者数が減少すると思われる。工事終了後、一定期間離れた利用者呼び戻すことが課題となる。

法人	(単位:千円)				
定 款	財団運営				
事業名	経営管理、組織・人事管理			総務課・事業企画課	
目 的	評議員会、理事会の決定に基づいた運営を行い、柔軟な組織体制と安定した経営基盤の強化を図る				
	予算額	執行額	差額	会計	法人会計
事業費	10,902	8,487	2,415		

■事業の計画

1. 実施内容

- (1) 評議員会・理事会の開催・運営
 - ・ 理事の改選
 - ・ 評議員会 年1回 6月
 - ・ 理事会 年2回 5・3月
 - ・ 臨時理事会 1回(予定)
 - ・ 業務執行理事会 年2回 5・3月
 各会議は上記以外に臨時に開催する場合もある
- (2) 組織 別紙1
- (3) 指定管理に関する業務
 - ・ 情報公開
 - ・ 個人情報保護の取り扱い
 - ・ センターの運営に関する京都市との協議・調整
- (4) 人事・労務・研修
 - ・ リーダー育成
 - ・ 職員研修の実施
 - ・ 人事評価制度の適正な実施
 - ・ 適正な労務管理
- (5) 公益法人に関する業務
 - ・ 改正公益法人会計基準への対応
 - ・ 事業計画、事業報告の提出

2. 事業実施における課題

- ・ 施設の今後を見据えた業務執行体制の検討と人材育成
- ・ 次期指定管理に向けた中期経営計画の策定

■実績

(1) 評議員会・理事会の開催・運営

- ・ 評議員会 6月26日(木)
- ・ 理事会 第1回 6月9日(月)
第2回 3月26日(木)
- ・ 臨時理事会 2月6日(金)
- ・ 業務執行理事会 5月15日(木)、3月9日(月)

(2) 組織 <別紙6>「組織体制」(p.64)

(3) 指定管理に関する業務

- ・ 情報公開 2件
- ・ 個人情報保護の取り扱い 問題なく運用
- ・ センターの運営に関する京都市との協議・調整 12月19日、3月16日

(4) 人事・労務・研修

- ・ 人事評価 2024年度後期 2025年5月実施
2025年度前期 2025年11月実施
- ・ 職員研修の実施
<別紙7>「2025年度研修一覧」(p.65)

(5) 公益法人に関する業務

- ・ 2024年度事業報告 6月27日提出
- ・ 2026年度事業計画 3月31日提出

(6) 中期経営計画の策定

中期経営計画(2026年～2030年)を策定

■概要と成果

2025年度の決算試算でかなり大きな赤字となることが想定されたため、臨時理事会を開催し、財政状況の把握と、対策を検討した。

また、2026年度のレイアウト工事後に事務所が2拠点から1拠点に統合されることを見こし、より効率化をめざし体制を見直した。

中期経営計画(2026年～2027年)をプロジェクトメンバーにより策定した。2026年度からセンター1階に民間企業が入り、センター内の状況も様変わりする中で、経営計画にそって男女共同参画センターとしての役割を果たしていきたい。

法人	(単位:千円)				
定款	財団運営				
事業名	財務運営			総務課・事業企画課	
目的	収益の安定と収支相償				
	予算額	執行額	差額	会計	法人会計
事業費	-	-	-		

■事業の計画

1. 実施内容

収益の安定

- ・貸会場の稼働率の回復
- ・オンラインを活用した自主事業の充実
- ・発行物の販売等による収益確保
- ・京都市や企業、大学からの事業の受託
- ・補助金、助成金等の積極的活用
- ・寄付金の増収のための広報、営業

2. 事業実施における課題

- ・整備工事に伴う収益の減少への対応
- ・施設稼働率向上のための取組み
- ・事業収益の拡大
- ・収支の均衡
- ・寄付金の増収

■実績

- ・施設利用率(日数利用率) 78.3% *一部閉鎖中の施設を除く
入館者数 253,662人 (前年度:357,901人)
- ・他機関からの事業の受託
不安を抱える女性に寄り添った相談支援事業(京都市)
不安を抱える女性を対象とした就業支援事業(京都市)
佛教大学ハラスメント相談業務(佛教大学)
- ・ECサイトによる発行物等の販売
(ジェンダーハンドブック、きょうとみんなの防災カード)

■概要と成果

これまでの赤字に加え人件費や物価の高騰が続いており、かなり財政が厳しい状況であるにも関わらず、京都市からの物価高相当の補填がなかったことや、職員を採用したことにより、大規模工事の補填はあったものの、大きな赤字となった。

今後は、指定管理料や施設使用料、修繕費や光熱水費負担の見直しや調整を京都市と行い、収支管理の徹底や体制見直しによる効率化により、恒常的な赤字からの脱却をはかり、財政の健全化をめざしたい。